

建康寺(太田道真館跡、自得軒跡)(入間郡越生町)

この辺りは太田道真(道灌の父)の隠居所で、前方が道灌の菩提を弔うために建立した建康寺



ちなみに太田道真・道灌親子の墓は近くの龍穩寺境内にある







道灌橋や陣屋・馬場跡・砦などの地名が残されているという

建康寺

所在地 越生町大字小杉

太田道灌の父道真は、龍ヶ谷の三枝庵に砦を築き、鉢形城主長尾景春に対抗したが、道灌が勢力を回復するとそこを出て、この地に隠居所自得軒を築き隠棲した。

文明十八年（一四八六）の夏、相國寺の詩僧万里は道灌と共に、川越城から道真を訪ねた。万里はその一夜のようすを著作「梅花無尽蔵」の中で次のような絶句で残している。

稀郭公（ほととぎす稀なり）

縦有千声尚合稀（たとへ千声ありと云へども尚合ふは稀なり）

況今一度隔枝飛（況や今一度枝をへだてて飛ぶをや）

誰知残夏似初夏（誰か知らん残夏初夏に似たるを）

細雨山中聴末帰（細雨山中にきいて未だ帰らず）

翌朝、万里は道灌父子と別れ、故郷岐阜へ去った。その年の秋、

道灌は相模国糟谷で暗殺され、これが道灌父子最後の対面になった。

道灌の死を悼んだ父道真が道灌の菩提をとむらうために、この地に建康寺を建立したもので龍穩寺三世泰叟和尚が開山した。

そして、今でもこの辺には、越辺川に架かる道灌橋を始め、陣屋、馬場跡、砦などの地名が残されている。

昭和五十八年三月

埼玉県



本堂から見た参道と周辺の風景



建康寺の背後の山を遠景から見る



さて、健康寺の隣の梅畑に何やら石碑が見える



「太田道真退隱之地」とある



また、ここから正面の山の下に健康寺の屋根(三角形)が見える





健康寺に進む川にかかる「道灌橋」





参考ホームページ

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/56922678.html

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/154doushin/doushin.html>

